



アメリカ中西部
の穀倉地帯

グランドキャニオン
& ナイヤガラ



アトランタ

アメリカ旅行記
2003.9.7. - 9.22.
by Mutsuo & Kikuko



ナッシュビル



トロント



ラスベガス



サンフランシスコ

アメリカ旅行記 2003.9.7.-9.22.

1. アトランタ Walk.
2. トロント・ナイアガラ Tour.
3. Country Music の 都 ナッシュビル.
4. ラスベガス.
5. グランド キャニオン.
6. サンフランシスコ.



アメリカ旅行 スケジュール表

2003.9.7. ~ 2003.9.22.

【関空→アトランタ→トロント・ナイアガラ→アトランタ→ナッシュビル→アトランタ→ラスベガス・グランドキャニオン→サンフランシスコ→関空】

都市	月日	曜日	移動	TIME	便名	
大阪/ 関空 (サンフランシスコ)	7 Sep.	Sunday	出発	14:55	UA 810	Hotel Sheraton Plaza Lenox
			トランジット	08:40		
アトランタ	8 Sep.	Monday	(Stay)	10:45	UA290	● アトランタ Walk ↙ ジョージア テック・コココーラ・under ground. ● 観劇『レ・ミゼラブル』 Hotel Sheraton Plaza Lenox
			トランジット	18:28		
(シカゴ)	9 Sep.	Tuesday	出発	07:50	UA1583	● トロント大学界限 Walk Hotel FAIRMONT ROYAL YORK
			トランジット	08:51↙		
トロント	10 Sep.	Wednesday	(Stay)	10:50	UA1006↙	● ナイヤガラ・ナイアガラオンザレーク ツア↙ ● トロント市街 Walk Hotel FAIRMONT ROYAL YORK
			トランジット	18:20		
(シカゴ)	11 Sep.	Thursday	出発	13:10	UA1015	● Lenox 研介宅でアイスワイン飲む Hotel Residence IN Lenox
			トランジット	13:56		
アトランタ	12 Sep.	Friday	(Stay)	15:50	UA1010	● Lenox 界限 Walk ● アトランタ Walk ストーンマウンテン・CNN ほか. ● 野球観戦 ブレーブス&フィリーズ Hotel Residence IN Lenox
			トランジット	18:53		
			地下鉄 MARTA			

都市	月日	曜日	移動	TIME	便名	
アトランタ	13 Sep	Saturday	(Stay)			● ナッシュビル ツアー ケンタッキーマンモス ケイブ. 研介の友達一家とディナー. グランド オプリ Country Music コンサート Hotel Double Tree
			(Stay)			● Rock City Walk を経てアトランタへ ● 研介 友人夫妻とディナー Hotel Residence IN Lenox
			(Stay)			● Lenox 界限 Walk Hotel Ramadan In airport
(デンバー)	14 Sep	Sunday	出発	08:45	UA397	● ラスベガス WALK Paris のパッフェ Hotel PARIS LAS VEGAS
			トランジット	09:57		
ラスベガス	15 Sep	Monday	(Stay)	11:20	UA417	● グランドキャニオン ツアー 4:35 South Rim & Bright Angel Trail walking Hotel PARIS LAS VEGAS
			トランジット	12:10		
サンフランシスコ	17 Sep	Wednesday	(stay)			● ケーブルに乗ってフィッシャマン ワーフへ Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
			トランジット			
サンフランシスコ	18 Sep	Thursday	出発	13:35	UA1183	● 半日ツアー & down town walking↙ Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
			トランジット	15:00		
サンフランシスコ	19 Sep	Friday	(Stay)			● シリコンバレー & down town walking↙ Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
			トランジット			
サンフランシスコ	20 Sep	Saturday	(Stay)			● シリコンバレー & down town walking↙ Hotel THE WESTIN ST.FRANCIS
			トランジット			
大阪	21 Sep	Sunday	出発	12:15	UA 809	アメリカ旅行 完了
			トランジット			
大阪	22 Sep	Monday	帰国	15:30		
			トランジット			

◆ 「久しぶりのアメリカ で」 風来坊 2003.9.7.~9.22.

9月7日から22日まで 2週間あまり家内と二人でアトランタにいる息子を訪ねて アメリカ珍道中。楽しんできました。

息子が言うには「よう こんだけ 勝手な旅行くんできたな・・・」と。

といわれても「家内はアメリカ初めて。また 何度も行く機会もないし、できるだけアメリカ見てこよう」と・・・・・・・・

ぼくの希望に息子がアレンジしてやると言ってくれたチョイス すべてOk でまったく欲張りの風来坊。

息子の住んでる「アトランタ」そして「トロント」「サンフランシスコ」を勝手気ままに walk。

ナイアガラの滝・グランドキャニオンのトレイルそしてアトランタのストーン マウンティン・ロックシティ・巨大な鍾乳洞マンモス ケープのトレイルをも歩いて、アメリカの大自然の大きさにただ唖然として声なしでした。

アメリカで一度行きたかったブロードウェイのミュージカル・大リーグの野球・ナッシュビルでカントリーのライブ ツアに息子が連れて行っていってくれて、ご機嫌でした。久しぶりにシリコンバレーのインテルも訪ねてきました。

9月11日ニューヨークテロによる破壊の記念日 アメリカの空港には国歌が流れ、いたるところに半旗。胸にはリボン。空港での厳しすぎるほどの手荷物・身体検査に誰一人文句も言わず行列を作っている姿と重なって アメリカの利己的な一面の是非は別にして、自由な国がひとつにまとまっている強さという か そんな筋の通った姿勢に見入っていました。

◆ 空港で

空港での手荷物検査厳しいと聞いていましたが、本当に徹底的。靴もバンドもみんなX線かけて。ちょっとでも金属探知機になると個別検査。

全身が引っかかるからぬまで。私は胸のポケットに入っていた1 ㄨ角ほどの箔で包まれた錠剤が引っかかり、中々見つからず大変でした。

でも、アメリカ人本当に良く我慢していると・・・・・・・・。

息子が言うには搭乗ゲートまで行き着くまで2時間前では大変・・・と。たかをくくっていましたが、それくらい見ておかないと厳しかったです。

でも、お陰で10年ほど前のあの人がごった返しむんむんしていた熱気はまったくなし、シカゴ・サンフランシスコの空港拍子抜けでした。

今は空港が一番安全かもしれません。



【アトランタ】



【シカゴ】



【サンフランシスコ】

◆ マクドやファースト フード & オープンテラス



「マクドナルド」大きさほか寸分変わらぬのにアメリカの方が高いのはなぜ・・・ 3ドルから5ドル日本の59円マックがなつかしい。

スナックやサンドイッチなどファーストフード総じて日本より高い。でも そのボリュームにはおどろかされる。でも「シェアするから二つに」というとスープでもサンドイッチでもサラダでも何でも感じよく分けてくれる。日本ではちょっと言えないと思う所でも分けられるのは楽。

家内は初めびっくりしていたが、二人で行くと楽ですね。

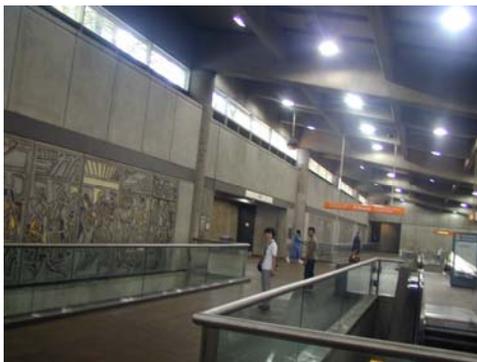
アメリカのサンドイッチ 温めてくれるのですが、パンの外皮だけ。「中途半端やったら暖めるな」といいたいのですが、これが正統派といわれると・・・イヤになります。

また、何であれだけ外のテラスでランチやティーしたがるのか・不思議です。

カンカン照りの暑い日差しの中でもオープンテラス 夜も店の中好いているのにオープンテラスが満員。街を眺めながら食事するのはぼくも好き。でも 日中や人ごみの通りの中となると もう ビックリです。

◆ 地下鉄やバスの中で

アトランタは黒人がほぼ半数を占める黒人の多い街。地下鉄とバスが連動していて バスの駅は地下鉄の駅の中にあり、バスに乗り継ぐ時はただである。もっともバスから地下鉄は乗り継げない。また 駅名がアメリカらしい。街の中心 five point から東西・南北路線が延びているのですが、ここから南へ七つ目の駅は S1 駅 西へ七つ目の駅は W7 駅 本当にわかりやすいです。アメリカの地下鉄は「汚くて治安が悪い」が代名詞でしたが、アトランタは駅に必ずポリスがいて 車両もきれいで全く不安感せず。



車椅子で乗り込んでくるハンディキャップの人にも乗客はみんな親切。ダウンタウンで片手しか自由が利かない黒人が車椅子で地下鉄に乗り込んできたが、乗客の一人がすぐ入り口横に車椅子を固定してやって、降りてゆく人がみんな声掛けて降りてゆく。本当に自然でビックリ。ダウンタウンの怖さばかりが頭にあったので、逆に黒人の人たちのやさしさや絆のつよさに本当にビックリしました。

もうひとつ ビックリしたこと。バス停で一番前で家内と並んでいたのですが、バスがきたので乗り込むと運転手から乗り込むのをとめられ、「降りろ」という。後ろを見ると後ろの方にハンディキャップの人がいる。みんな その人が乗り込むまで待っている。これが、ルールなのですね。感心しました。

◆ サンフランシスコで

サンフランシスコは丘の続く伝統の街並を守るため、街に高速道路が通るのを排除したという。

サンフランシスコをひとつの大きな丘とするとこの丘の斜面にビジネス街もダウンタウンもすべてあり、輪切りの街路と丘へ登る垂直な街路に古い家並みが立ち並ぶ。丘の頂点を中心に東西南北にクロスしてケーブルが走り、輪切りの街路を路面電車とトロリーバスが結ぶ。それらの公共交通と車が同じ平面を走る。でも徹底したケーブルカー・路面電車優先 乗降客の歩行優先である。ケーブルはクロスする街路の交差点に止まる。ケーブルが止まるたびに四方の車の流れが止まる。車に乗っている方からすると本当に非効率・スピードも出せないお手上げ状態。でも サンフランシスコ市民はこの交通システムを選択したという。ビックリです。



【サンフランシスコ】

まあ スピードが出ていないので大きな事故はないかもしれないが、ビックリするような大きな音を出しながら、消防車がフルスピードで交差点を通過して行く。事故が起こらないのが不思議であるが、ルールがしっかり守られているからだろう。ほかの車が消防車のまねしたらそれこそ事故だらけだと思いますが、ここでもアメリカではルール破りがいない。不思議であり、感心する。

◆ シリコン バレー インテル博物館での出来事

久しぶりにシリコンバレーを訪ねるべく、サンフランシスコ カールトレイン駅へ。

ところが 週末は工事のため運休という。きっちり時刻表が作られ 代替バスがサンフランシスコとサンノゼを走っている。別に何ということなく駅も静かなものである。このカールトレインがサンノゼとサンフランシスコを結ぶ通勤電車と聞いていたので拍子抜け。さすが 車社会である。

高速道路をバスで約1時間 ハイウェイを走ると赤茶けたシリコンバレーの山並みが見えだすとまもなく青のインテル色した建物が左手にみえてくる。

インテル博物館に入ってゆくとセキュリティがストップをかけ、外へ出ろという。表に確かに「手ぶらで 手荷物はすべて車において来い」との注意書き。

日本からきたので 手荷物を置かせて 何とかしてくれ と頼み込みましたが、何が何でも道路の向こう側に荷物ほって来いという。

はっと気付きましたが、爆弾自爆防止の措置。何を言っても駄目。インテルの厳しいセキュリティーここまで来たか・・・と感心。

便法なしとセキュリティが全く取り合ってくれなかったのはさすが。感心ばかりしてられないのですが、何とか博物館に行ってきました。どうしたかは秘。

さすが、例外を作らぬインテル 世界企業のセキュリティの厳しさとルールを貫き守る姿勢に昔を思い出し、改めて感心。

感心ばかりしていて 家内には怒られました・・・



【カールとレイン サンノゼ駅で】



【サンタクララ インテル博物館】

◆ インターネット社会に接して



大リーグやブロードウェイ ミュージカル・ナッシュビルでのカントリーミュージックの切符やアトランタのホテルの予約やらすべてインターネットで息子が取ってくれました。どれも インターネットでアクセスして予約。予約結果をプリンターで打ち出してそれを当日持参し、窓口で入場券にひきかえ。代金はクレジットで処理。予約結果をプリントアウトしてそのプリントアウトした紙にバーコードが付され、それですべて座席まで完了。当日人でごった返す中ほとんど時間もとらず、すぐ入場券に交換。ビックリ。そういえばクレジットカードはスーパーでも ファーストフードでも街の出店でもごく普通に使われている。

日本でもチケットをインターネットや電話で予約して、ローソンで引き換えする

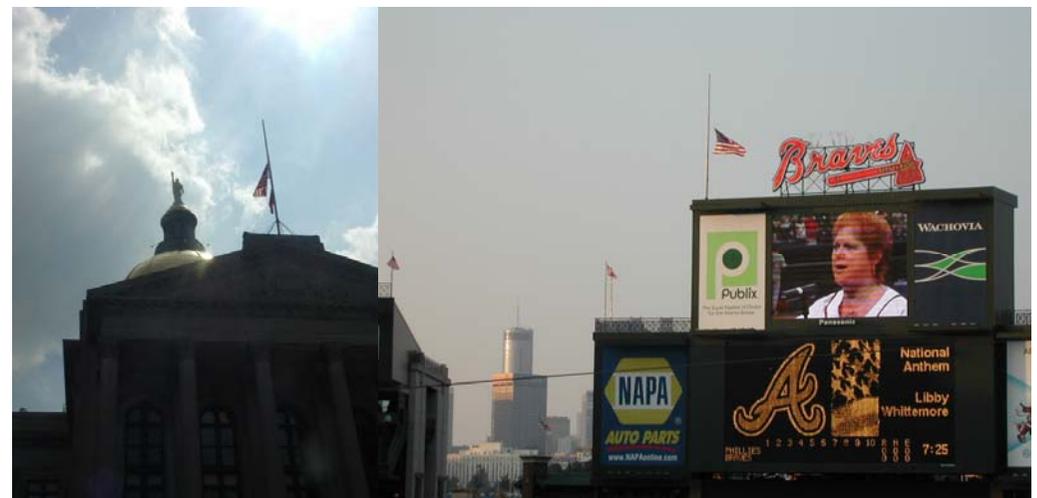
ことなど進んでいるのは知っていますが、日常茶飯事的に実にスピーディーに行われているのにはビックリ。

また ナッシュビルのカントリーミュージックのコンサート。司会者が繰り返し繰り返し「ダンカン」「ダンカン」と言っている。誰かミュージシャンの名前かと思っていましたが、ふっと気がついて「.com」でした。英語の解らん風来坊恥ずかしい話です。そういえば TV もしきりにこの言葉連発しています。今後は インターネットに携帯電話・クレジットカードが加わって益々便利になる一方 操作できないと全く生活できなくなり、独居老人になること必定。せつせと 色々チャレンジしていかないと・・・と感じています。

アメリカというと「合理・効率主義で行動力はあるが利己的・即物的な国。伝統のないことが短絡的な行動にでるのではないか・・・」と思ってきましたが、

何か考えてきたこととは違った一面を見たような気がしています。むしろ日本の方が短絡的形式的でルール無視の放任無責任な社会にまっしぐらに進んでいるような気がしています。

アメリカの方が「精神的に豊かなものを追い求め出しているのではないか」「社会がわかりやすいルールの中にあり、その責任も浸透している」。まだまだダウンタウンではプアーな人達を多く見ましたが、何か日本の冷たい視線とはちがったものを感じました。



日本人がご都合主義でアメリカの物まねしている間にアメリカの方が精神的にも社会全体が強くなっていると感じました。



アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる2週間のアメリカ旅行でした。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」など口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨てる競走社会へまっしぐら。

はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・・・。

ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

2003.10.10. 神戸にて

アメリカ旅行の整理の中で Mutsu Nakanishi

この旅行の計画から航空券・ツアー・ホテルの手配までしていただいたご近所の高橋さんご夫妻 元JTBにお勤めのプロ。

息子に「好き勝手ほうだいの旅行」といわれた風来坊の旅につきあっていただき きました。本当にありがとうございました。

思いつきを次々と組み込んでもらって ツアーコンダクタ 泣かせだったと思います。

計画の時はもとより、旅行中もスケジュール表片手に飛行機の搭乗・座席まで日を追って 日本でチェックしていただいていたと聞きました。

ぼくなど関心なくて知りませんでした、この旅行で使った飛行機の搭乗回数「10回」とすぐ教えてもらってまたビックリ。

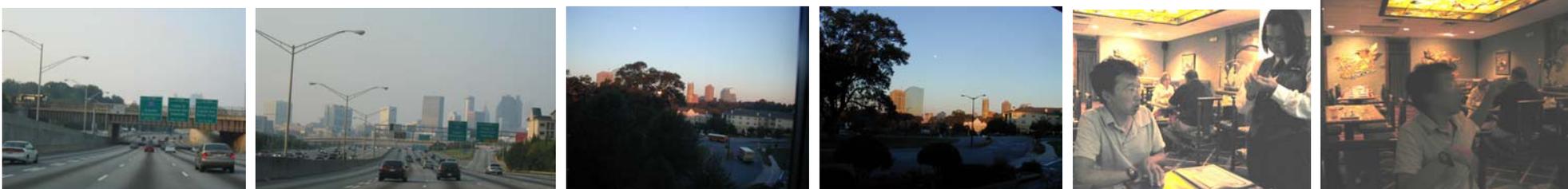
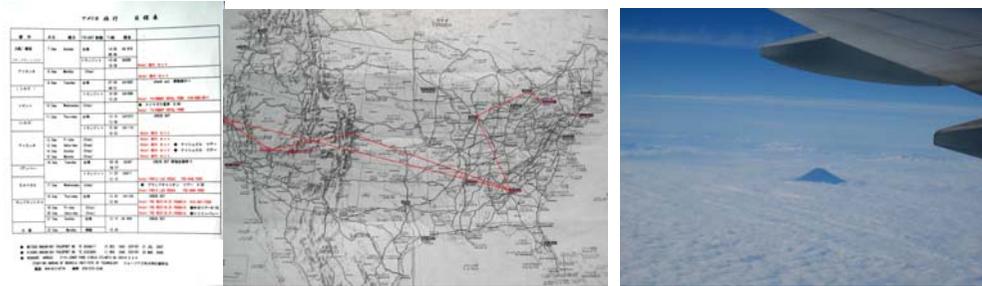
さすが 旅行のプロ。 ありがとうございました。

家内からも「あんたは とてもやないが、みんないっしょのツアーは無理。 好き勝手に走り出して・・・」と。 風来坊ゆえお許しを

アメリカ旅行記 【1】 アトランタ

アトランタへ出発 2003.9.7.

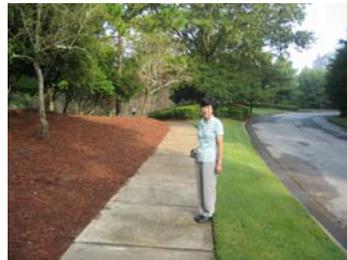
9.7.午後 晴天の関空から UA810 よく乗った飛行機で出発
朝 サンフランシスコ着 大変でしたが、以外とずっと通関
家内に食べさせたかったチャウダーを食べてアトランタへ
デルタの飛行機が並ぶどでかい空港着。研介の顔を見て一息。





Atlanta BackHead Lenox 研介の居処 2003. 9. 8. &12.

アトランタの北の新しい副都心「バックヘッド」の一角レノックス
 静かなすばらしい林の中の高級住宅街に住んでいました



QUALITY SHOWS®
 at
POST
 LENOX PARK
 APARTMENT HOMES



Lenox Square

2003. 9. 15.

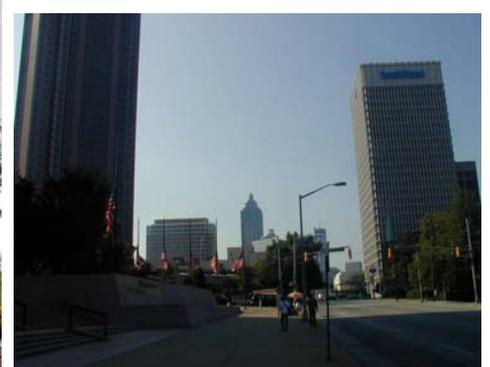
Back Head Lenox の中心のビル街にある高級ショッピング センター。ブランドの店がならんでいる。すぐ隣は大きなスーパー。 スプレー缶に入ったチーズを買いに一目散。 広い空間でのピザランチにご機嫌

Atlanta Walk

2003. 9. 8.

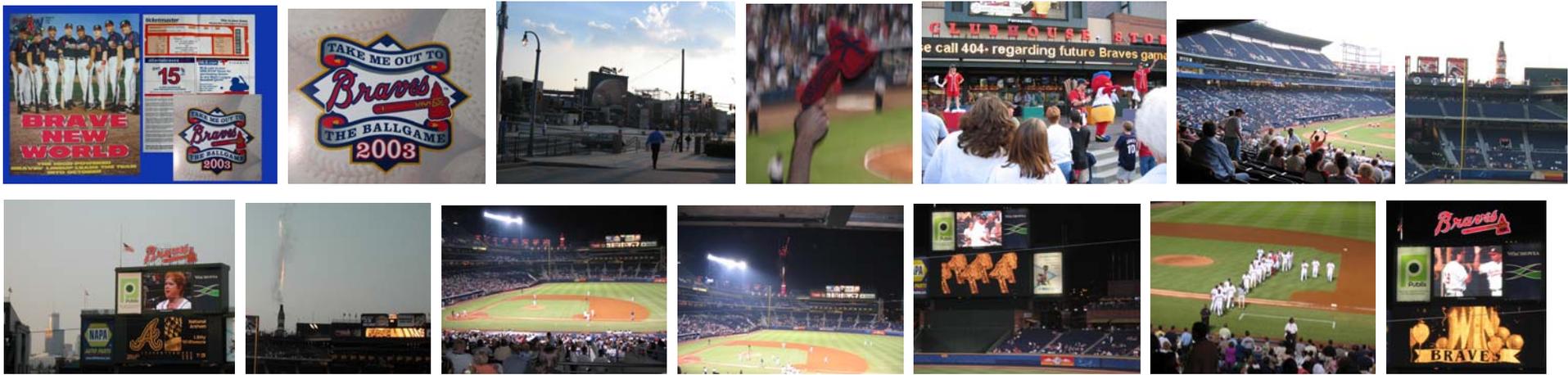
研介に地下鉄の乗り方を教えてもらって、後は自由に`down town`・mid town`の walking

地下鉄は街の中心を起点に東西南北に走り、駅名は「起点から何番目」駅 「N1, N2, W4」と呼ぶ 実に判りやすい
街の中心に尖塔の「バンカメ」のビル。CNNやCoca Colaの本社 ジョージア工科大の黄色いバスが走っている
ここは 「風とともに去りぬ」の街また 黒人運動のキング牧師・ジミーカータ前大統領の故郷

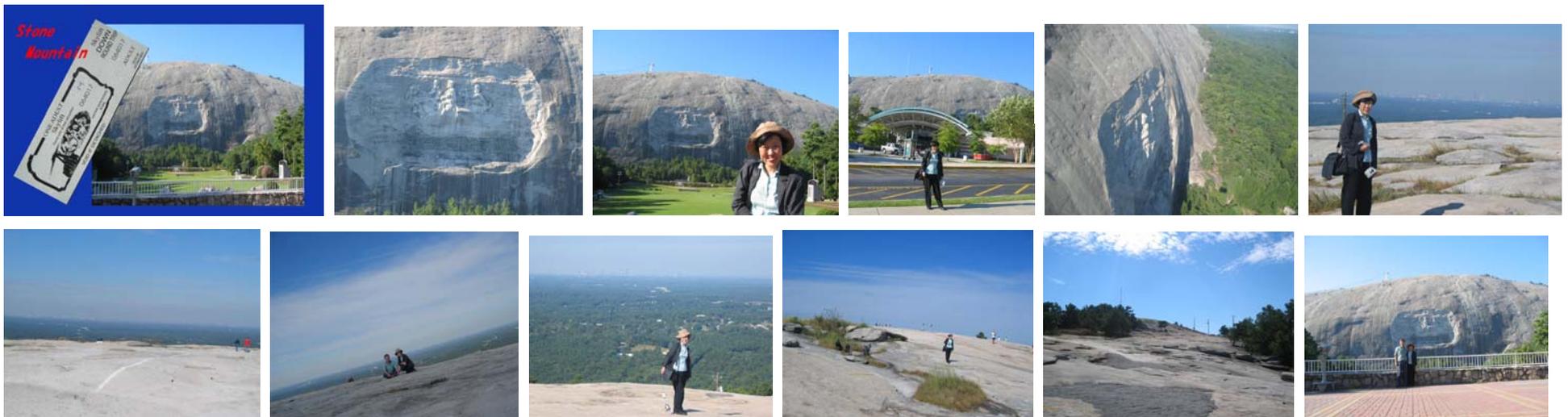


A4 ・ A3 界限【ジョージア工科大学・州議事堂・ミッチェル記念館・聖公会の教会】& Five Point 【 コカコーラ 記念館】 2003. 9. 8.





Atlanta Braves 観戦 2003. 9. 8. 大リーグ ブレーブスの試合観戦。 手斧がマスコット 日米の応援の差ほか大いに楽しみました
ホームランを打つとご当地 コカコーラのビンから花火。 打者の声援は繰り返さず。 これは精がない



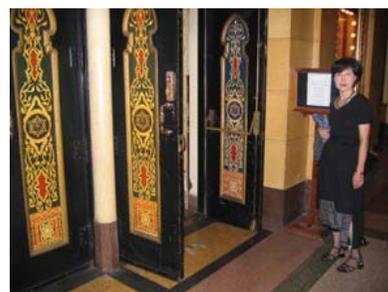
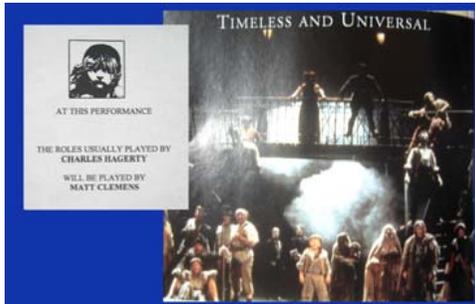
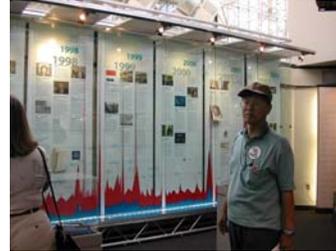
Stone Mountain 2003.9.12.

アトランタの街の郊外にこんな「石？」のどでかさにただビックリ仰天
森に包まれた周囲を巡る汽車が走り、頂上からは アトランタの街をは
じめ 360 度の地平線 ちょっと味わえない経験でした



CNN 見学

ヘッドライン ニュースの見慣れた顔ぶれが放送しているのをみました 2003.9.12.



ブロードウェイ ミュージカル 観劇

2003. 9. 12.

楽しみにしていたミュージカル。何言っているかわからんが、楽しかった。
アメリカ人もみな やっぱり観劇は正装。でもカジュアルも ok goo でした

ダウンタウンの中心 Five Point

Under Ground

2003.9.8.

楽しい高架下の街 気取りのない ごじゃ
まぜの街 ちょぴり値切ること
も
地下広場で食べている人の皿を見て lunch

Under Ground 橋の下のショッピング街





Stone Mountain 2003.9.12.

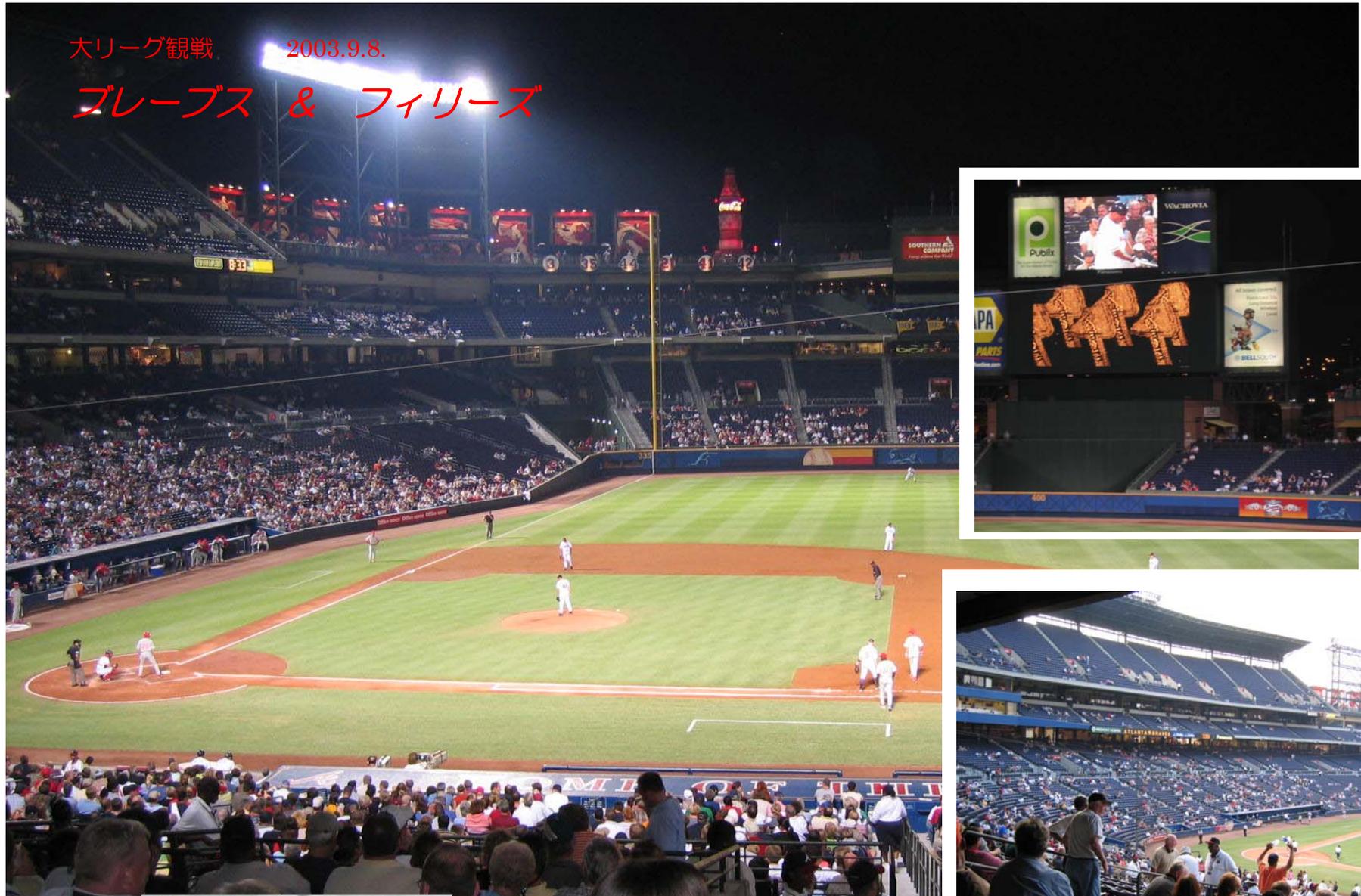


Stone Mountain *2003.9.12.*



大リーグ観戦 2003.9.8.

ブレーブス & フィリーズ



TAKE ME OUT TO THE BALLGAME 2003

ticketmaster This is your ticket. Present this entire page at the event.

SECTION	SEAT	PRICE	STATUS
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK
108/108A	111 12 7	10.00	OK

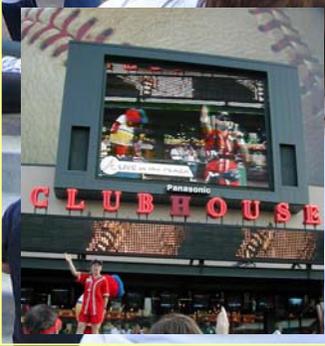
ATLANTA BRAVES VS. PHOENIX PHOENIX

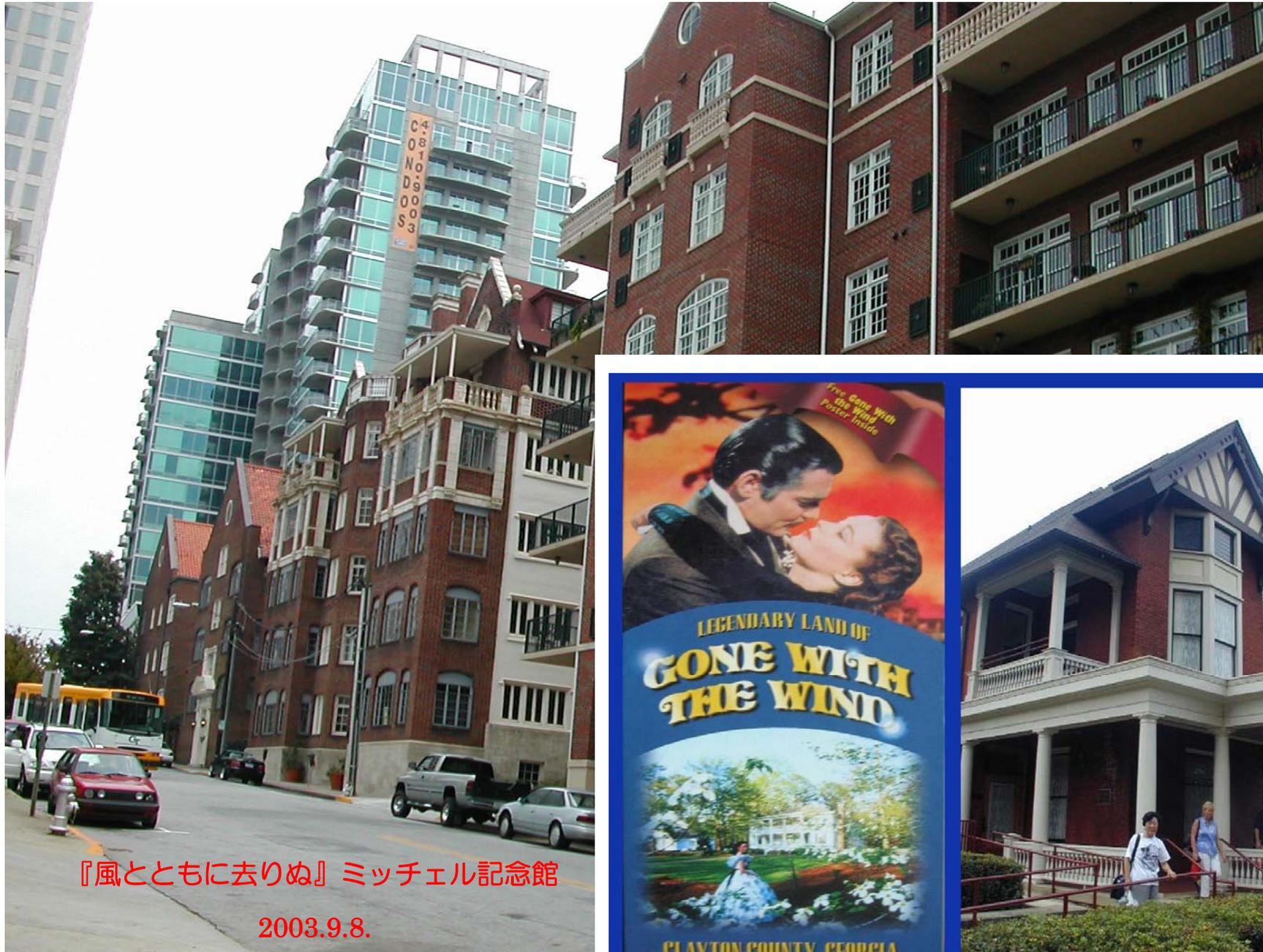
THURSDAY, SEPTEMBER 8, 2003 7:10PM



CLUBHOUSE

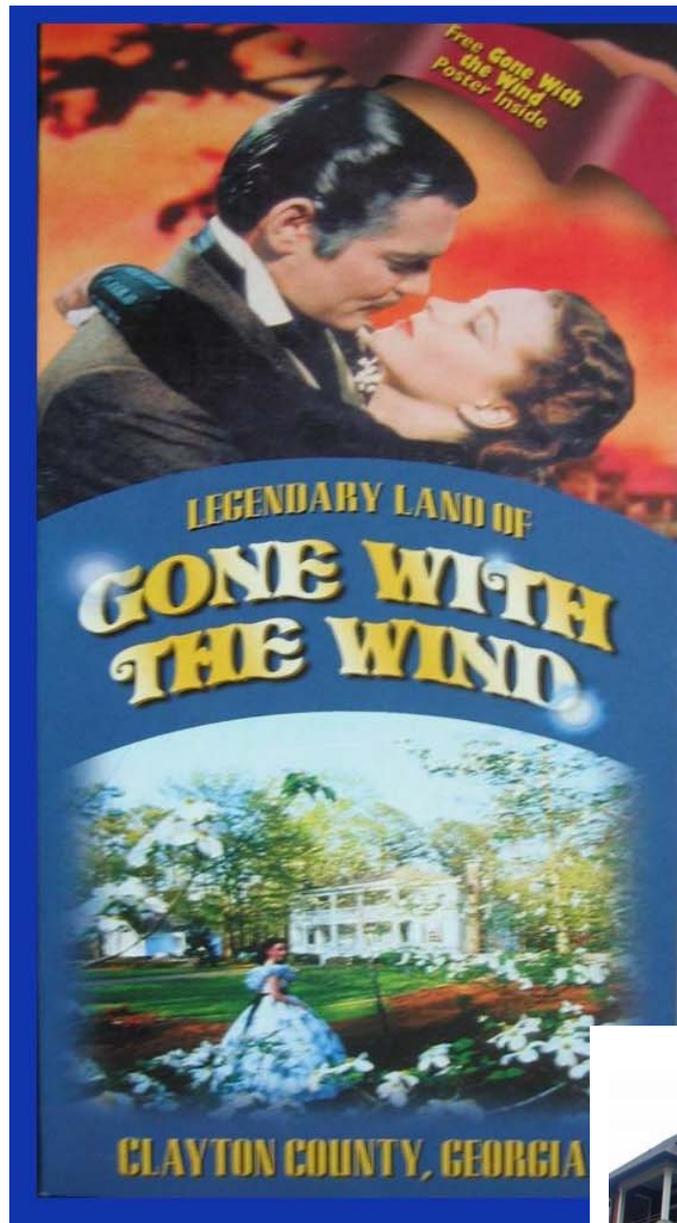
THE CURRENT TIME IS 6:50





『風とともに去りぬ』 ミッチェル記念館

2003.9.8.

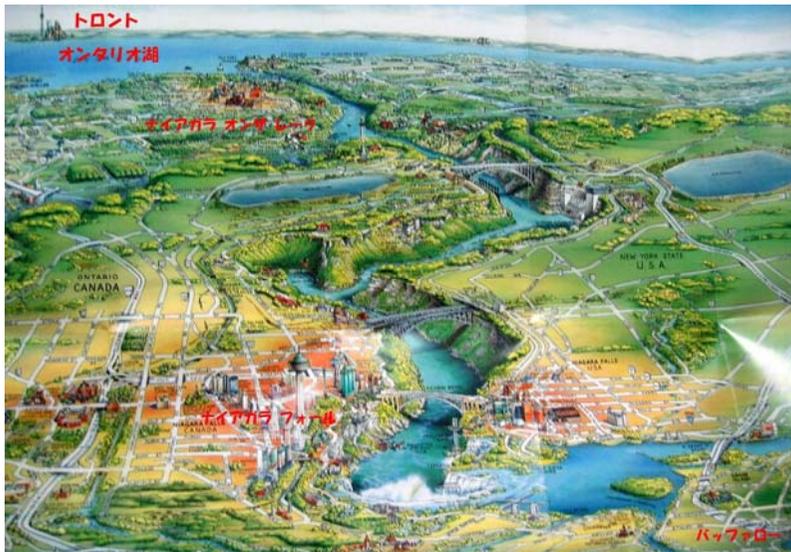


「風と共に去りぬ」ミッチェル記念館

2003.9.8.

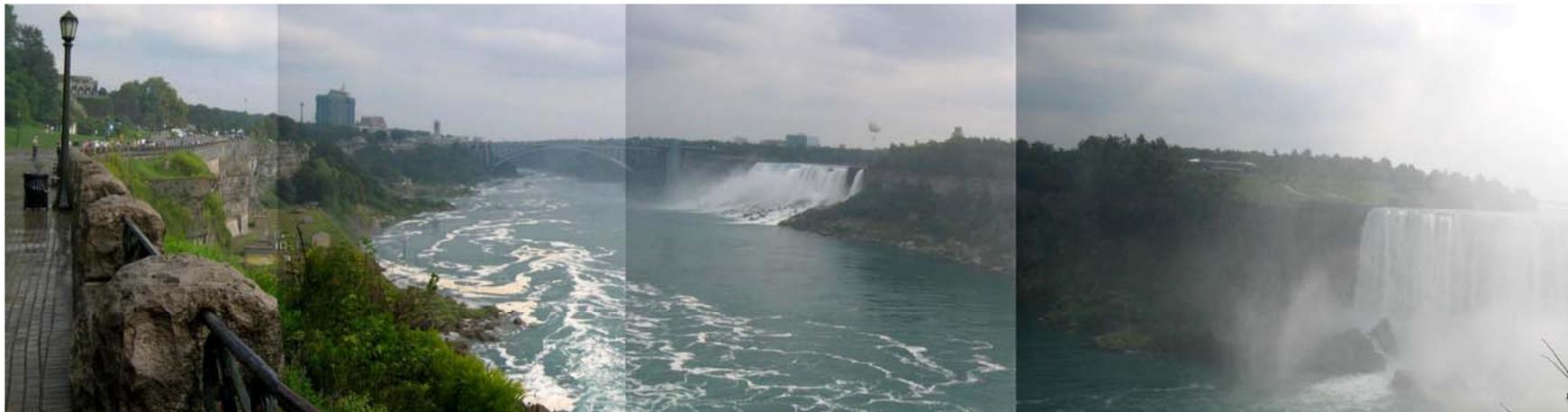






アメリカ旅行記【2】 2003. 9. 9. -9. 11

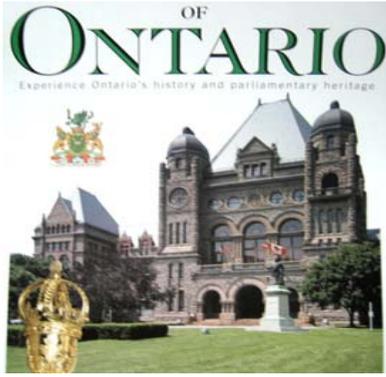
トロント・ナイアガラ・ナイアガラオンザレーク



9. 9. 早朝 アトランタからシカゴ経由でトロントへ。翌朝 トロントからツアーシャトルでナイアガラ。そしてナイアガラオンザレークの街へ。古い歴史的建造物群が立ち並ぶトロント大学・落ち着いた街並や人の流れを見ながら街角のレストランのテラスでとったディナー。いくつかの教会にも訪問 建物とステンドグラスにもしばししみとれていました。ナイアガラ「カナダ滝」の滝壺に突っ込む「乙女号」 水しぶきを全身に浴びながら そのスケールの大きさにあっけにとられていました。おとぎの国から抜け出たようなナイアガラオンザレークの街での午後の散策とテラスの手すりにもたれながらのナイアガラ ワイン。ナイアガラの滝のスケールに驚嘆し 古いカナダの古都・トロント オンタリオ湖岸のオンザレーク。すばらしいカナダの秋を満喫してきました。



カナダ滝 2003.9.10.



シカゴ空港で

◆ トロントに到着したのは9.9.夕 早速 地下鉄使って トロントの街へ



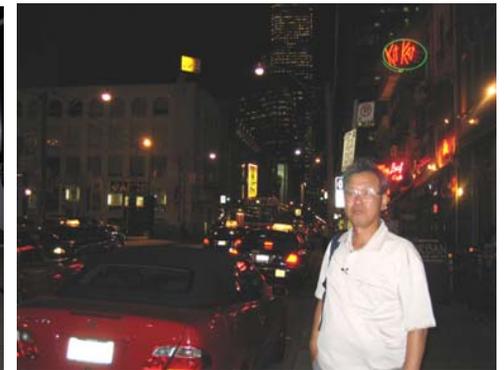
◆ トロント大学 界限 歴史的建造物群と教会建築





◆ トロントの町並【1】 2003.9.9.



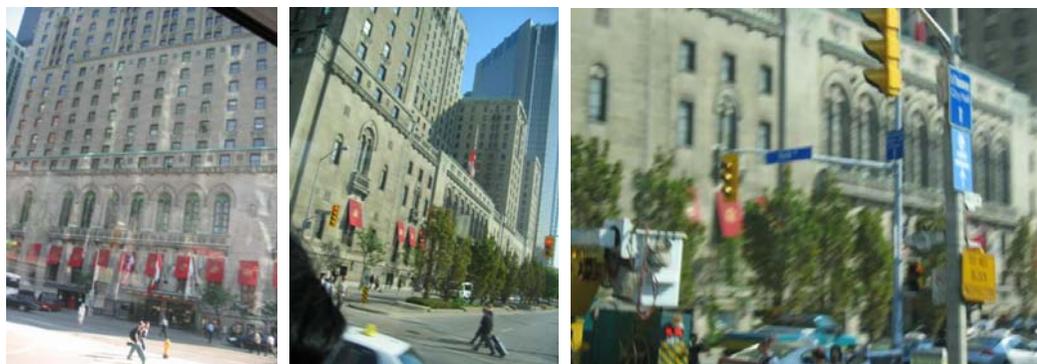




トロントの夕景 街でのディナー 2003. 9. 10. 夜

ナイヤガラの豪快さに興奮しながら、夜トロントの街へいつも眺めながらぜひトライしたかった高級レストラン街のテラスでのディナー。ちょっとへっぴり腰ながら、レストランのテラスを指定して夕闇の通りを見ながらのイタリア料理。通りの人達が料理を覗いてゆきます。自分たちもうトロント人になった気分で楽しみました。

トロントを去る朝 2003. 9. 11.



トロントを去る朝、駅前の通りにもう一度でて、ラッシュの人並みの続く地下でブラックファースト。スープの中味がつたわらなくて・・・・・・
ホテル「ロイヤル ヨーク」
エリザベス女王の額がかかる英国調のすばらしいホテルにもう一度ホテルの中を Walking してからシャトルバスへ。

バスの窓からビル街を眺めていて、ホテルへの忘れ物に築いてバスを飛び降り。運転手氏は切符まで返してくれて 次のバスに飛び乗れました。

ここでも、忘れ物の失敗 これで トロントの印象も倍加。

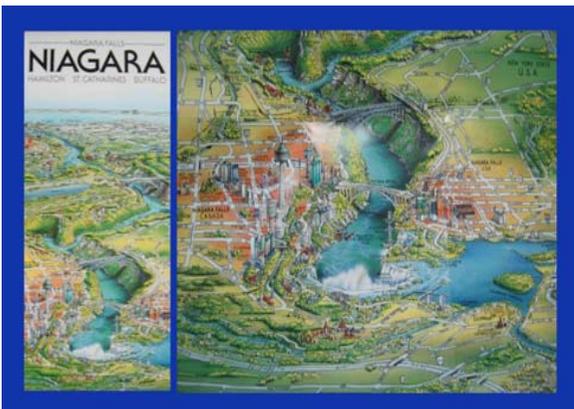
今日はニューヨーク テロの日 シカゴの空港は国歌やアメージングの歌が流れ空気がいっぺん。アメリカの悲しみが本当に伝わる再入国でした



ツアーバスのクルーザでナイアガラへ

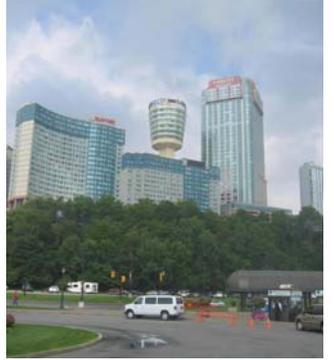
2003.9.10.

高速道路を約1時間。 ハミルトン「STELCO」の高炉が見えるとやっぱり血がさわぎます。



カナダ滝

2003.9.10.



カナダ滝 2003.9.10.

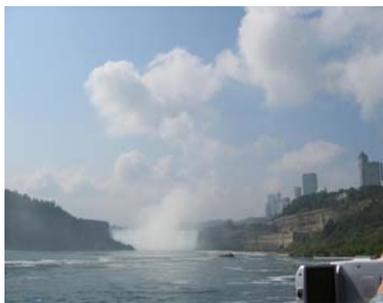
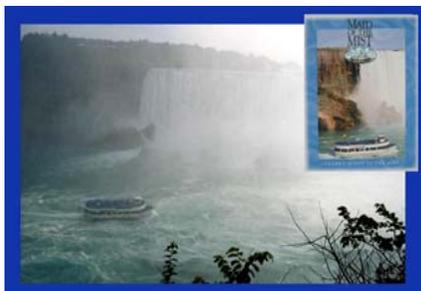


アメリカ滝

2003.9.10.



「乙女号」で滝の中へ 2003. 9. 10.



ナイアガラ川に沿って、オンタリオ湖川口のナイアガラオンザレークへ



ナイアガラ滝の出口

Naiagara On the Lake

2003.9.10.



オンタリオ湖の河口におとぎの国から出てきたような美しい街並がある。林の中の美しい英国調の洋館が立ち並び、花があふれ、馬車が走る。イギリスの貴婦人が「シャナリ シャナリ」と出てきてもおかしくない街である。明るい午後 街をながめながら飲むワインも格別。この地方の特産「アイスワイン」もしっかり買いました。本当はアイスワインなんて名も教えてもらうまで 知りませんでした。



Niagara on the Lake の Wine Shop で









アメリカ旅行記 【3】 カントリーソングの故郷 ナッシュビル 2003.9.13.



「アトランタ滞在の週末にカントリーソングを聴きにナッシュビルへ連れて行ってやる」とのメール。
 「アトランタから北にハイウェイ飛ばせば十分行ける」と。願ってもないことで二つ返事でOK。
 アトランタはジョージア ナッシュビルはテネシー。足を伸ばしてケンタッキーの大鍾乳洞「Mammoth Cave」にも。また7つの州が見渡せるチャタラーガー「ロック シティー」にも。
 ナッシュビルの名物コンサート「グランド オプリ」もう何十年も全米に生中継されているコンサート。
 もう うきうきで自然と体をゆすり、手をたたいていました。
 また 「Mammoth Cave」「Rock City」もすばらしい自然の作品。すばらしい自然 walk でした。
 ついでながら、State Road 沢山の「コンボイ」が見られ、これもご機嫌。 家内は赤のトラックに夢中

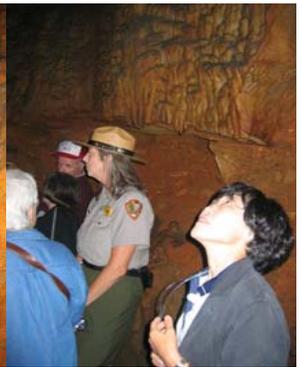
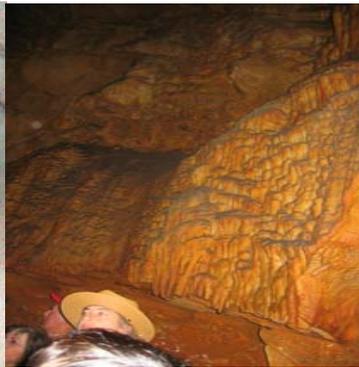
● ナッシュビルへ STATE ROAD 86 を北へ



Mammoth Cave

2003.9.13.





ケンタッキー
Mammoth Cave
2003.9.13.

Country Music の都 「ナッシュビル」

Nashville & Country Music コンサート「GRAND OLE OPRY」 since '95



Country Music コンサート「GRAND OLE OPRY」 since '95



Nashville
GRAND OLE OPRY
Since '95

2003.9.13.



*Nashville
GRAND OLE OPRY
Since '95*

2003.9.13.



アメリカ 7州 が 見渡せる「Rock City」 2003.9.14.



アメリカ旅行記 【4】 ラスベガス 2003.9.16-18

● 中南部の穀倉地帯に行く【アトランタ→デンバー→ラスベガス】

早朝アトランタを立ちデンバー経由でラスベガスへ再度大陸横断。そこは世界を担う大穀倉地帯。1時間ほど飛ぶと蛇行しながら穀倉地帯を貫く大河「ミシシッピ」。色とりどり 円形の畑が整然と並ぶのがみえる。突如また裸の山肌が見え出しその山裾に着陸。デンバーである。デンバーを飛び立つといよいよロッキーの山岳地帯。グランドキャニオンの谷の中をコロラド川が流れ、雄大な渓谷がどこまでも続いている。渓谷に広がる湖を越え、なだらかな山肌がひろがる砂漠の中に突如広がる街が見える。砂漠の中に整然と並ぶ家並みの橋に一群の高層ビル街が山岳の砂漠の中に広がっている。ラスベガスである。





ラスベガス【1】世界のテーマパークと「パリス」

空港に降り立つと実に暑い。砂漠特有の懐かしい厚さである。ラスベガスの建物はまさにカジノを持った世界のテーマパーク。もう 唖然とする。泊まったホテル「パリス」その豪華さにビックリ。「カジノ」まったくわからぬのもっぱら walking と「クイケ」若い人の憧れ「パリのパッフェ」本当に楽しいディナーでした。グランドキャニオンで一緒になった若い女の子が眼を輝かせてうらやましがられました。ぼくたちも若い人たちの仲間入りの気分



パリのパッフェ やっぱり大人気でずっと行列でしたが、並ぶ価値ありました。ちょっと高いですが・・・

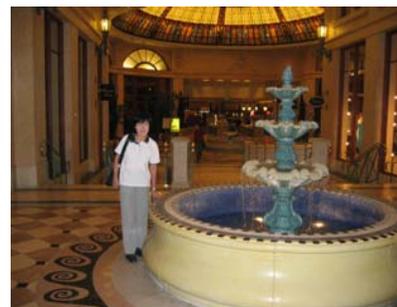
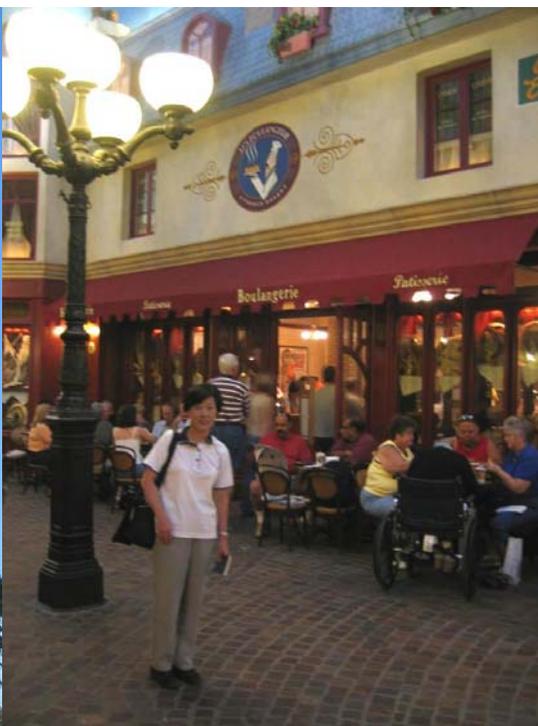
2003.9.16.

● ラスベガス 夜の STREET WALKING





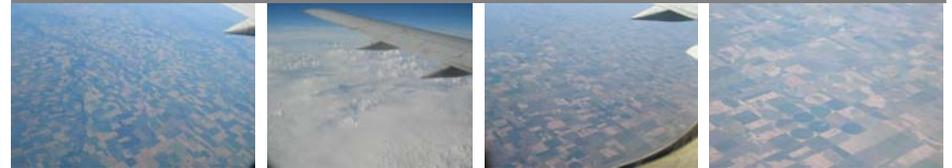
● ラスベガスからサンフランシスコへ 2003.9.14. 朝に 「パリス」で



アメリカ旅行記 【4】 ラスベガス 2003.9.16-18

● 中南部の穀倉地帯に行く【アトランタ→デンバー→ラスベガス】

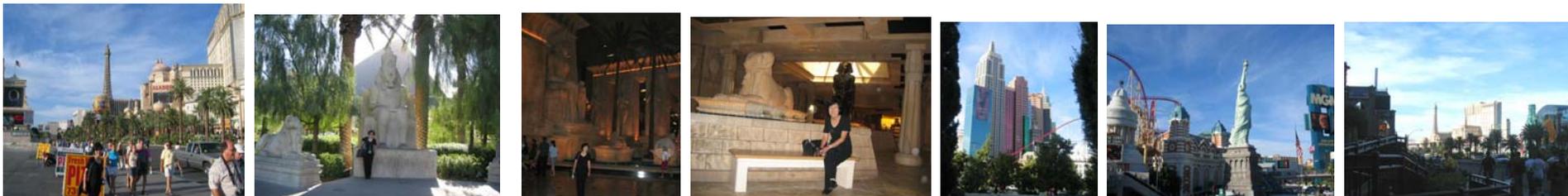
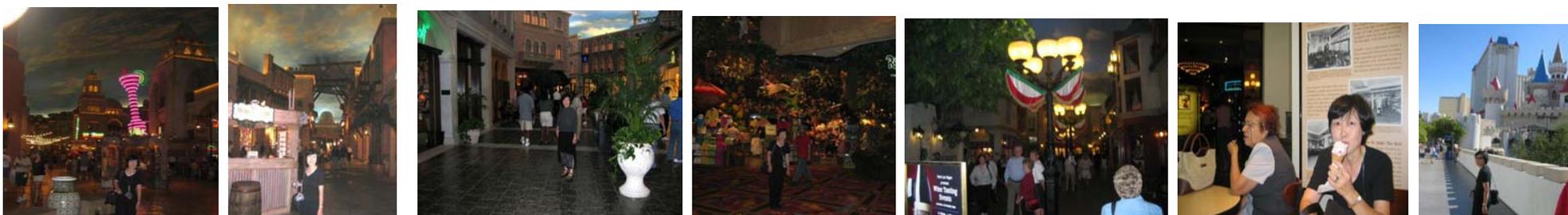
早朝アトランタを立ちデンバー経由でラスベガスへ再度大陸横断。そこは世界を担う大穀倉地帯。1時間ほど飛ぶと蛇行しながら穀倉地帯を貫く大河「ミシシッピ」。色とりどり 円形の畑が整然と並ぶのがみえる。突如また裸の山肌が見え出しその山裾に着陸。デンバーである。デンバーを飛び立つといよいよロッキーの山岳地帯。グランドキャニオンの谷の中をコロラド川が流れ、雄大な渓谷がどこまでも続いている。渓谷に広がる湖を越え、なだらかな山肌がひろがる砂漠の中に突如広がる街が見える。砂漠の中に整然と並ぶ家並みの橋に一群の高層ビル街が山岳の砂漠の中に広がっている。ラスベガスである。





ラスベガス【1】世界のテーマパークと「パリス」

空港に降り立つと実に暑い。砂漠特有の懐かしい厚さである。ラスベガスの建物はまさにカジノを持った世界のテーマパーク。もう 唖然とする。泊まったホテル「パリス」その豪華さにビックリ。「カジノ」まったくわからぬのもっぱら walking と「クイケ」若い人の憧れ「パリのパッフェ」本当に楽しいディナーでした。グランドキャニオンで一緒になった若い女の子が眼を輝かせてうらやましがられました。ぼくたちも若い人たちの仲間入りの気分



パリのパッフェ やっぱり大人気でずっと行列でしたが、並ぶ価値ありました。ちょっと高いですが・・・

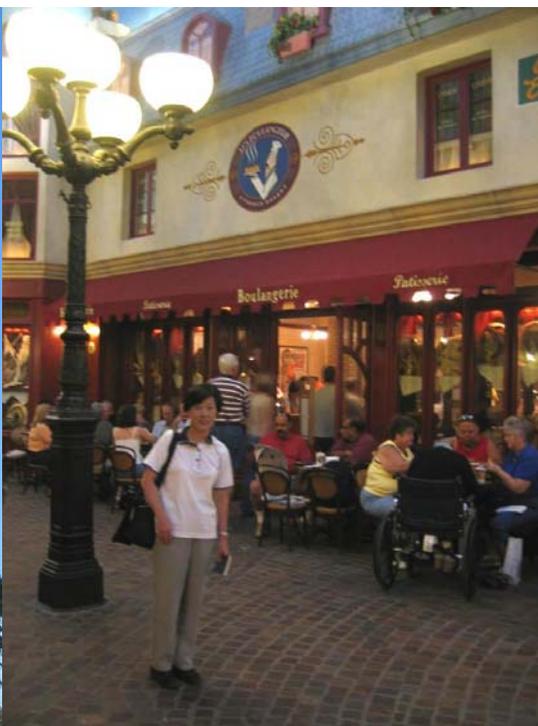
2003.9.16.

● ラスベガス 夜の STREET WALKING



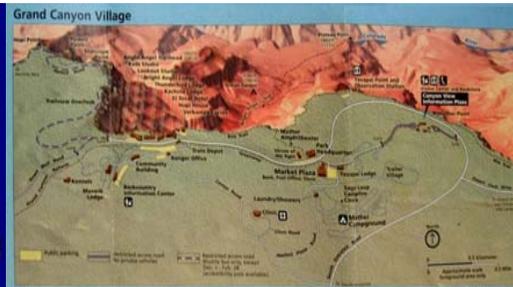


● ラスベガスからサンフランシスコへ 2003.9.14. 朝に 「パリス」で



ラスベガス空港

アメリカ 旅行記 【5】 グランド キャニオン *South Rim & Bright Angel Trail* 2003.9.17.

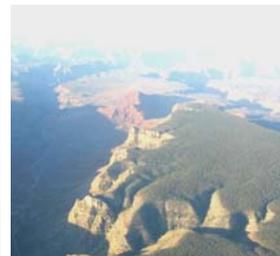


9.17. 朝 4時30分シャトルバスに乗り込む。ラスベガス空港6時30分発の20人乗りツアープロペラ機で飛び立ち、ダム湖を越えるとコロラド川に刻まれた大渓谷「グランド キャニオン」が朝焼けの中に広がり、渓谷の向こうに延々と続くアリゾナの大砂漠地帯が遠望される。1時間ちょっとで「グランド キャニオン」空港につく。ツアーバスに乗り換えて「グランドキャニオン サウスリム」にむかう。半日でラスベガスに戻る一団 モニュメントバレーに向かう人も一緒。4名だけが一日グランド キャニオンに残る。まず、サウスリム西端のヤバパイ ポイントへ。 渓谷の底の底にチツチャク見えるコロラド川をはさんで眼前にノース リムの大渓谷のパノラマがひろがる。やっぱりすごい。ポカーンと見ていました。 30分ほどいて、サウスリムの中心「ブライト エンジェル」へ。ここからは一日がかりでコロラド川に渓谷をくだり、次の日ノース リムに登ってゆくグランド キャニオン横断の「Bright Angel Trail」とサウスリムを東西に歩ける「South Rim Trail」の交差点。サウス リムにはTrailと同時に渓谷を見渡せる「ビューポイント」を結ぶシャトルバスが走っており、誰もが楽しめるようによく整備されている。 日本のツアー客を中心とした一団はこのブライト エンジェルをちょっと見てバスで帰ってゆく。グランド キャニオン滞在時間約1時間。もう アゼンです。 ぼくたちは9時30分から4時30分までたっぷりフリーで楽しめる。やっぱり 1日型のツアーでよかった。Bright Angel を途中まで下って引き返し、サウスリムを東西に歩いて時間・場所で刻々変化する「グランド キャニオン」を精一杯楽しみました。

◆ ラスベガスから グランド キャニオンへ 空から朝焼けの「グランド キャニオン」を見る

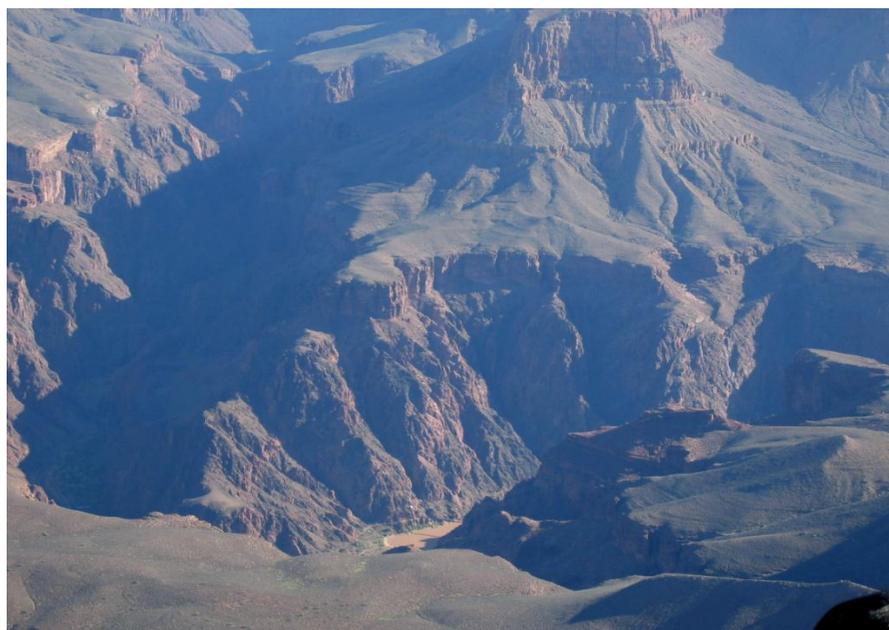
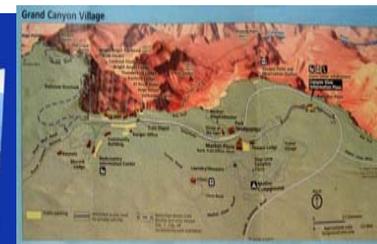
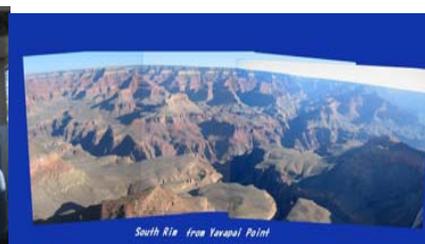


下に「コロラド州」が見える

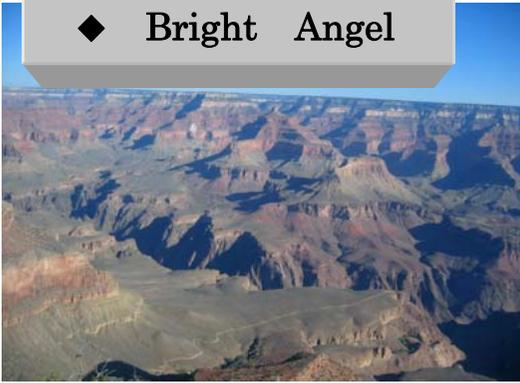


「グランド キャニオン」の谷上は樹木で覆われた平らなテーブル。この渓谷は今も隆起を続けており、隆起がこの渓谷をつくった」との説明が飛行機に乗ると納得です。

◆ South Rim 「ヤバパイ ポイント」



◆ Bright Angel

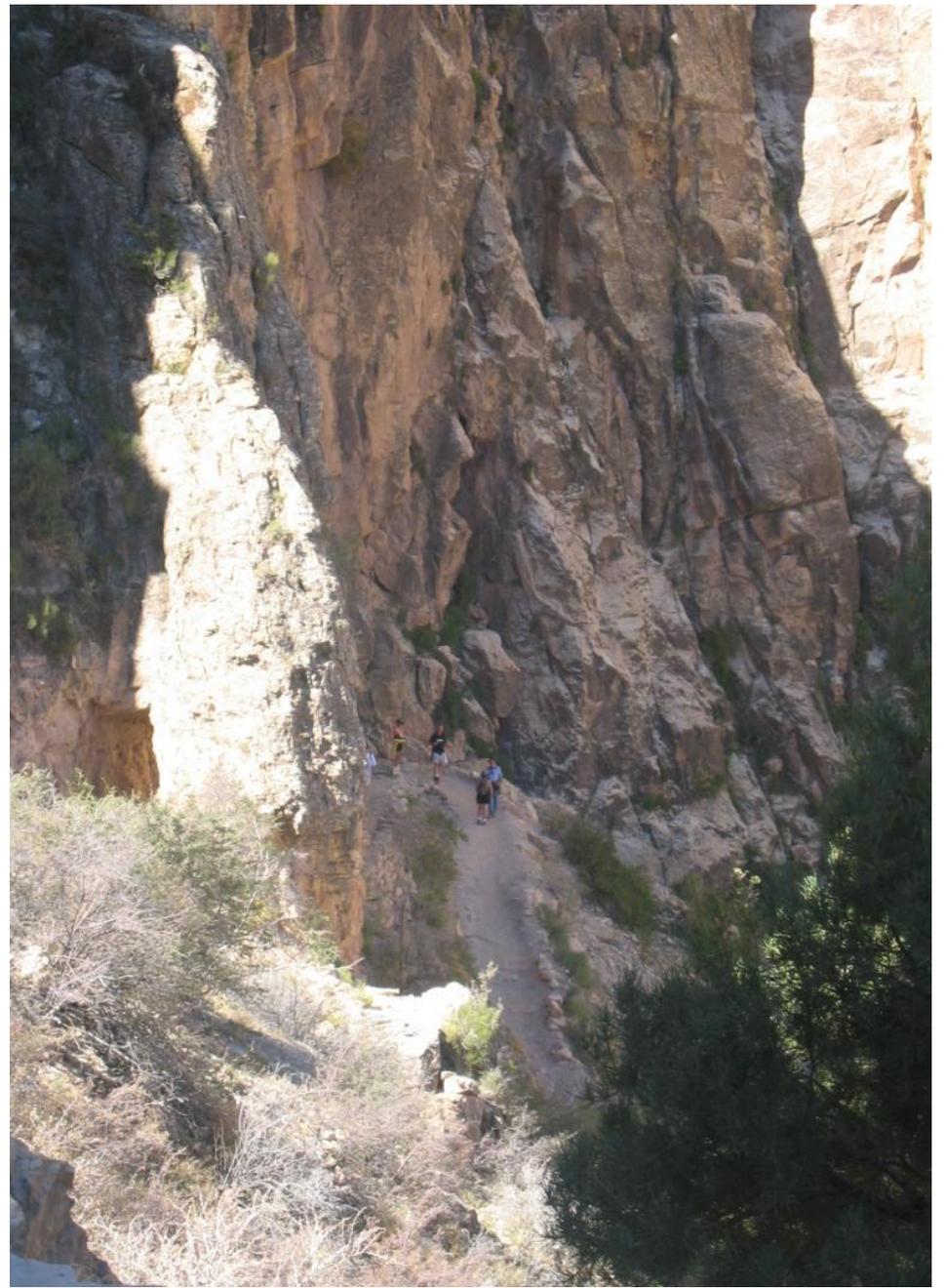


◆ Bright Angel Trail











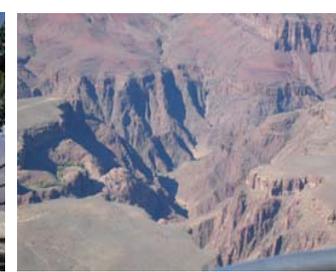








◆ *South Rim East* *Mother Point*

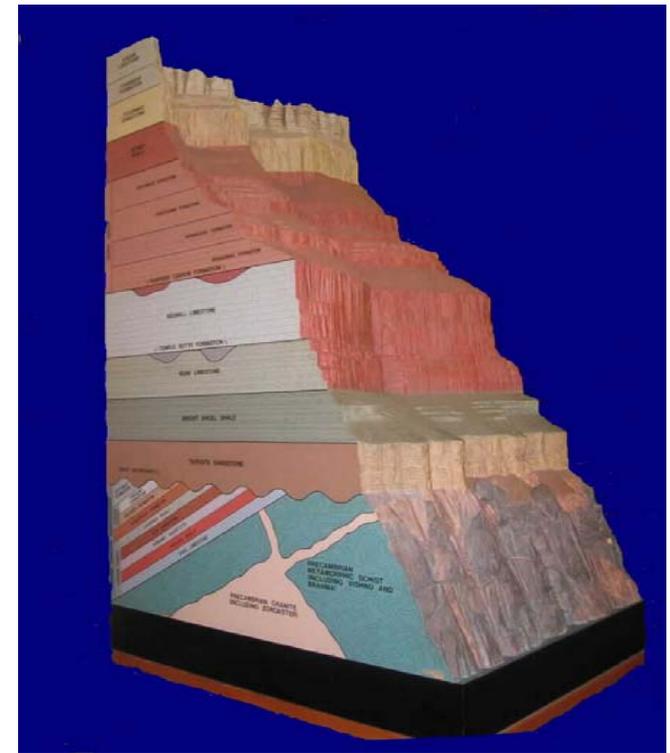
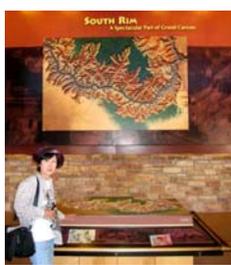




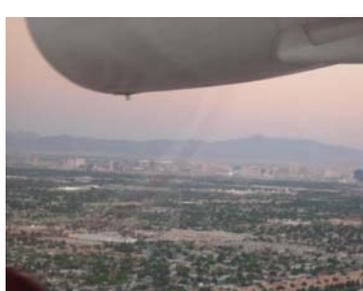




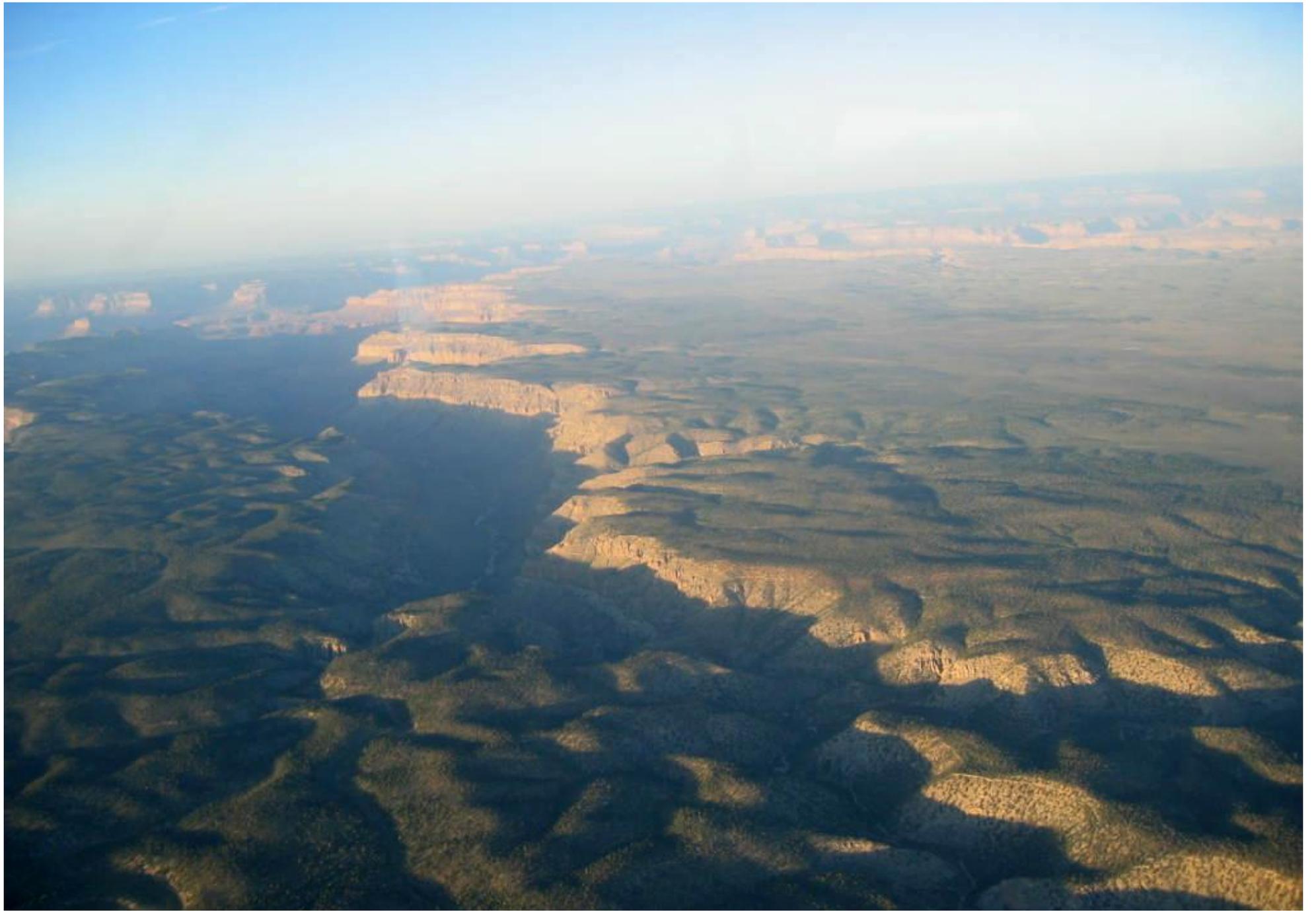




夕日の中をラスベガス空港へ



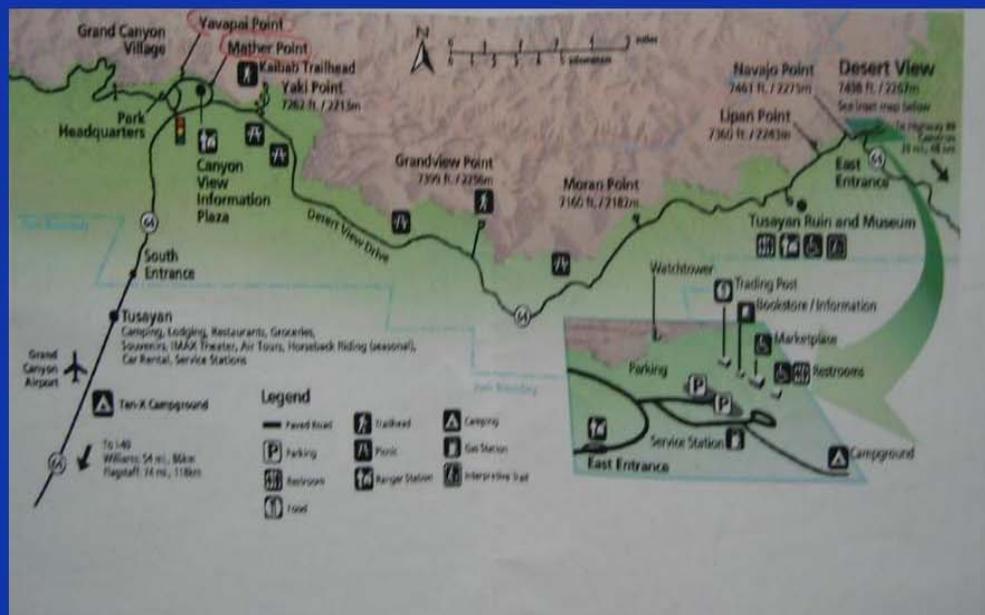
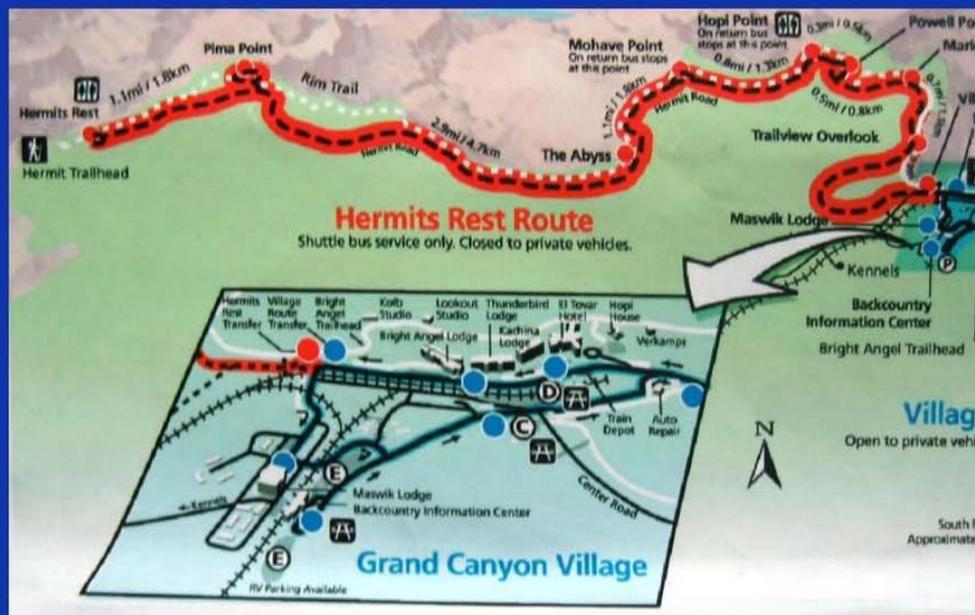
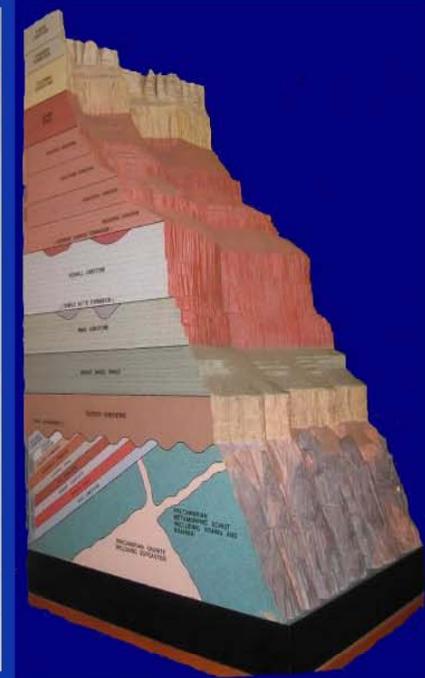
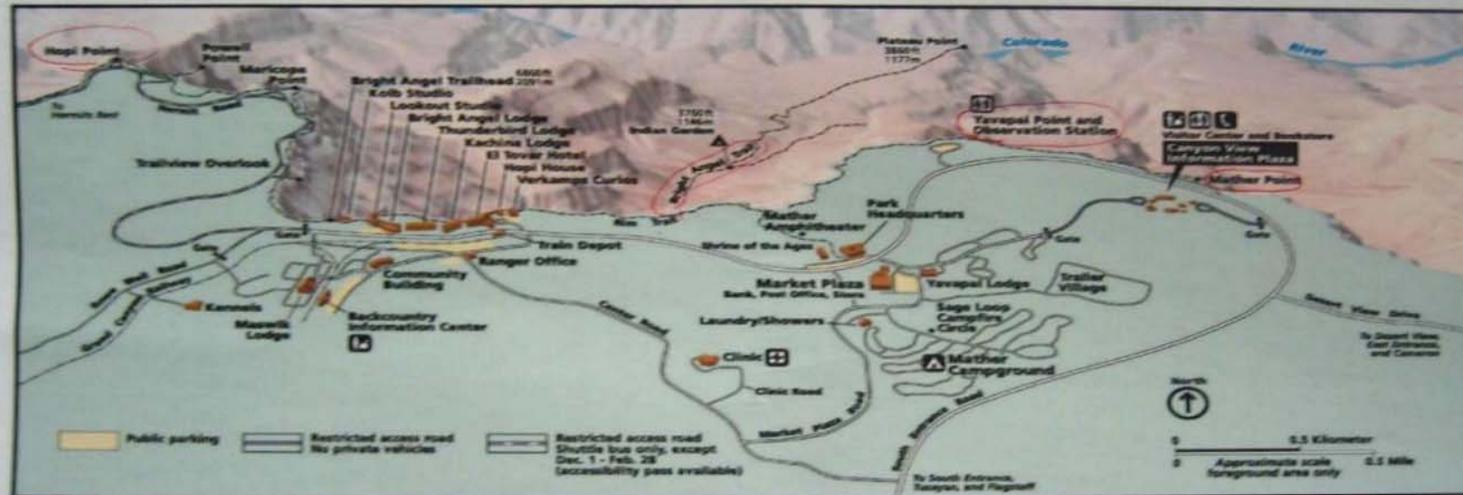
夕日に映える「グランド キャニオン」・「コロラド川」を眺めながら、やっぱり歩いて解るそのスケール「サウスリムからの景観・谷の中から見上げた峡谷」一日じっくり眺めた景観の満足感に浸っていました。





Grand Canyon Village Map South Rim

National Park Service
US Department of the Interior
Grand Canyon National Park



アメリカ旅行記 2003.9.7.-9.22.

1. アトランタ Walk
2. トロント・ナイアガラ Tour
3. Country Music の都 ナッシュビル
4. ラスベガス
5. グランド キャニオン
6. サンフランシスコ



アメリカ 旅行記 【6】 サンフランシスコ 2003.9.18-21



霧の街「サンフランシスコ」というが、訪れた9月18日から21日はすべて晴天。

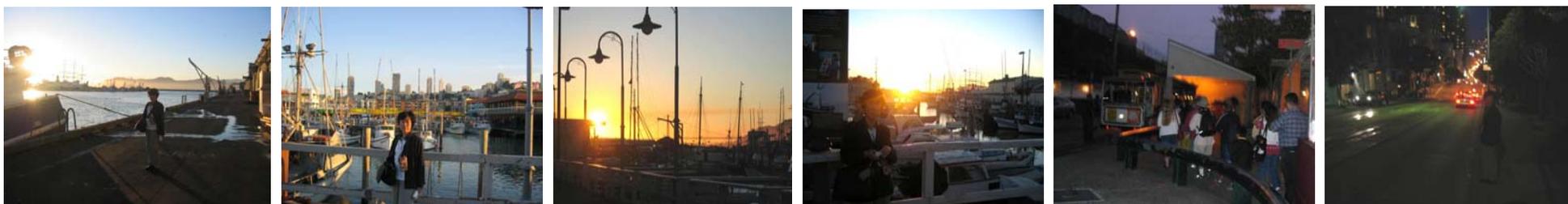
晴れ渡った街のケーブルカー・トロリー・バスに乗って、街のWalkを楽しみました。

「サンフランシスコ」の街全体がこんなに急な丘の上にあるなんてビックリ。平地は港周辺の狭い土地のみ。ダウンタウンもビジネス街も中華街も住宅街も斜面にありました。

斜面といっても中途半端でない急な坂道。東西南北十字にケーブルが坂を登り。輪切りの同じ等高線沿いに電車やバスが走る。景色は良いが、「ようこんなところに街が・・・」が実感。でもこの坂道が古い洋館の家並みにマッチして美しい街をつくっています。幾度となく訪れたサンフランシスコですが、ゆっくり歩いたのは初めて。印象が随分違っていました。街に高速道路を排除し、不便を覚悟でケーブルや街並を残し、バス・市電で足を確保と聞きました。車とケーブル・バス・市電そして人が同じ平面で共存している不思議な街。もつとも事故も多いのか、消防車がけたたましいサイレンを鳴らし、走りまわっています。

ホテルはケーブルが前の坂道走る街の中心 ユニオンスクエアに建つすばらしい洋館の「セントフランシス」。ここを拠点に3日フリーきっぷを買って、ガイドブックを眺めながら美しい坂の街を歩きました。そして、食事も名物を探して……。また、一日 ハイウェイをバスでシリコンバレーの中心サンノゼまで行って、インテル博物館にも行って来ました。久しぶりに見るインテルに満足でした。

◆ セントフランシスにチェックイン - Powell Street walk - 2003. 9. 18. 夕
すぐにケーブルに乗って丘を登って丘の反対側の海岸 フィッシャマンワーフへ

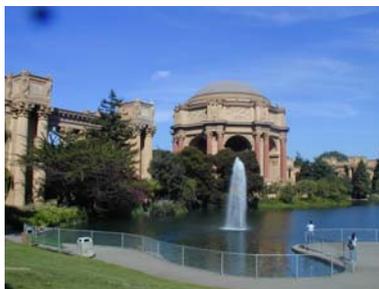


◆ 「サンフランシスコ」 walk 【1】

サンフランシスコ眺望 「ツインピーク」から 2003. 9. 19.



● パレス・オブ・ファイン・アーツ Palace of Fine Arts Exploratorium





Golden Gate Bridge 2003.9.19.



フィッシャーマンズ・ワーフ
【1】天然のアシカ繁殖地
2003.9.19.

フィッシャマンワーフで
チャウダーのランチ

2003. 9. 19.



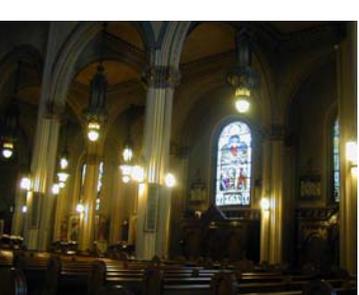
フィッシャマンズ・ワーフ

【2】ランチ

2003.9.19.

Columbus Street : Washington Square から China town ・ Business 街へ

2003.9.19.





ビクトリアンハウスが並ぶ
Alamo Square
2003. 9. 19.



City Hall & Opera House



フィッシャマン ワーフで夕食

「サンフランシスコにいったら・・・」 フィッシャマン ワーフに立ち並ぶシーフードレストランで念願のディナ。
生牡蠣・えび・かに そして アンカービール・一日 サンフランシスコを歩き回った夜 今日もご機嫌です。





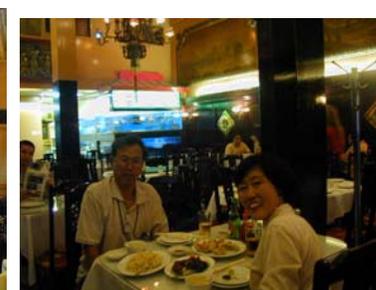
Alamo Square 2003.9.19.



サンフランシスコ Walk 【2】

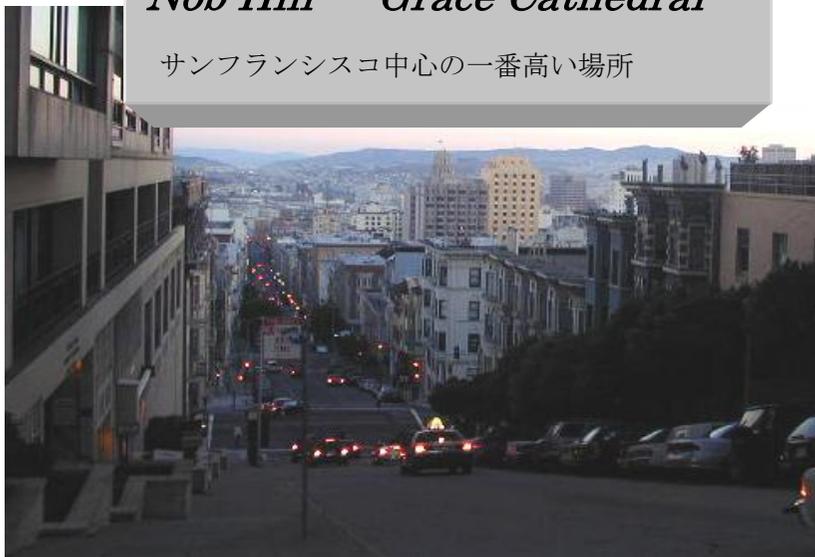
Union Square 周辺 & 中華街

2003.9.20.



Nob Hill Grace Cathedral

サンフランシスコ中心の一番高い場所





Union Square & Hotel 「セントフランシス」

2003.9.20



サンフランシスコ 中華街

2003.9.20.

シリコンバレー再訪 【サンノゼ・サンタクララ インテル博物館】

2003.9.20.

9.20.(土) サンノゼ行の Carl Train カールトレイン駅へ行くと土日は運休。びっくりです。シャトルバスに飛び乗り、国道 101 をスタンフォードを通過してサンノゼへ。快適なハイウエーのツアー。NASA のそばを通り 懐かしい禿山の山並みが見えるとシリコンバレー。インテルの青も見える。いまだに解らんのですが、約 1.5 時間のバス代はただ。「パライヤ」のインテルでは「手荷物全部外において来い」とシャットアウト。何とかインテルのお嬢さんの助け舟で ok いまさらながらインテルの厳しさ 納得です。



◆ Intel Museum 2003.9.20.

5年ぶりにインテルを訪問。青で統一されたガラス張りのインテルの本社。表からは昔とまったく一緒。その一角「グローブ 記念館」の中にある博物館。久しぶりにパッケージと対面。「つわものどもが夢の後」です。入館でまたまたインテルのお嬢さんに助けってもらって・・・
 いまさらながらインテルの女性のしっかりしたビジネス姿勢 随分 怒られたり 助けってもらったり 助力をお願いしながら昔を思い起こしていました。



1988 to 1992

Intel's marketing is as bold as its technology

As its third decade began, Intel released ever-more-powerful microprocessors, a new kind of memory, and more products that made it easy to link computers in networks. Innovative approaches to advertising made Intel one of the most recognized brand names in the world.

1989
 The Intel486™ Breaks Speed Records Intel packed more than a million transistors into the Intel486 microprocessor. Like the Intel386 processor, the Intel486 chip processed 32 bits of data at a time and could run the software written for earlier generations of Intel processors. Performance increased on the new chip, in part because it came with a built-in math coprocessor and took on other functions that used to call for separate chips.

1993 to 1997

excitement comes to PCs

In the mid-1990s, Intel became the world's top semiconductor manufacturer, thanks largely to the success of Intel microprocessors. The company developed technology that made wireless products and PCs more useful and more fun to use. PC users began enjoying multimedia systems with great sound, photographs, and video.

1993
 The Pentium® Brand Is Born With 3.1 million transistors, the Pentium processor brought faster performance, better graphics, and real-time speech and video to personal computers. Because it was fully compatible with earlier Intel microprocessors, the chip's expected name was Intel486. However, Intel cannot prevent imitators from using similar numbers to name their products, so the company decided to use a name it could protect with a trademark. Their guess: Intel remembers that the chip was Intel's first generation microprocessor.

